富士見町のAEDはどこにあるの?



日本赤十字社富士見町分区 富士見町赤十字奉仕団(住民福祉課社会福祉係 ☎62-9144)

とっさの時にいのちを救うAED。病院や駅など、町中でよく見かけるようになりましたが、富士見町内 でAEDがどこにあるかご存知ですか?

富士見町赤十字奉仕団では、町内のAED設置個所が一目でわかる「富士見町 AEDマップ」を作成しました。万が 一の時のために、日頃からAEDがどこにあるか意識して生活してみましょう。



町内のAED設置個所は、「一般財団法人日本救急医療財団 全国AED マップ」でも検索できます。(https://www.qqzaidanmap.jp/)

AEDとは

AEDは、救急現場で一般住民が電気ショ ックを行えるように設計された機器です。心 停止の原因となる「心室細動」を正常に戻 すためには、電気ショックが必要です。電気 ショックが 1 分遅れるごとに、生存退院率 は7~10%ずつ低下しますので、迅速な対 応が鍵となります。

●救急法講習会を開催しています

日本赤十字社では、AEDの使用方法や、 心肺蘇生法、けがの応急手当の方法等、救 急法の講習会を開催しています。

各地区、団体等への出張 講習も可能です。講習を希 望される方は、お気軽にお 問い合わせください。



子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの場所から~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「子育てひろばAiAiの役割し



▲保護者を支えることは、子どもたちを支えることにつなが

先日、「高校内お悩み相談居場所カフェ」の活動が広がって いる、との報道がありました。

「居場所カフェ」とは高校生が学校の中でジュースやお茶を 飲みながら自由に過ごし、NPOのスタッフや地域のボランティ アと雑談をしながら悩みを相談できるスペースのことで、 2012年に大阪の高校で始まり、現在全国で約30ヶ所に広がっ ているとのことです。

その魅力は、"敷居の低さ"だそうです。

「相談窓口」「個別相談」は生徒にとってハードルが高く設置 しても利用が進まなかったのが、気軽な出会いから始まり会話 を通じて信頼関係を築く中で、生徒の困り感を理解し、必要に

応じて具体的な支援につなげていく、そのことで中退や進路未決定などの予防になっている、と担当の学校相談員の 言葉が紹介されていました。

この高校内の居場所カフェは、まさに子育てひろばの活動と同じです。対象が、乳幼児を子育て中の親であるか高 校生であるかの違いがあるだけで、まずはリラックスして過ごせること、利用者を受容し、何気ない会話を通じて信 頼関係を築くことに重点を置き、信頼関係があることで話せる悩みについて一緒に考え、必要であれば具体的な支援 へとつなげます。時間がかかるようで、実は一番近道で、利用者が抱えている課題に対して自分で納得して自己決定 しながら解決の方向に向けられる方法だと思います。

大切なことは、何かが起こる前に、起こらないようにすること。子育てひろばの一番の役割は「予防的支援」です。 ここに力を入れることで、解決困難な事例が激減します。